

# 空

## 「平安を得る」

「ここに平安をずっと持つ続けることは、そう簡単なことではない。人類は争いのない「平和」を手に入れてはいけません。せめて、今日一日だけでも平安を確立してみたい。それなら、できる。かもしれない。誰とも争わない。勝った自慢は思わない。人の悪口を言わない。そんな今日一日だけなら、できるかもしれない。」

## よい生活のための二つのこと

(南足柄あんしん講座にて)

「人間の生活は火星か深海か?」というような記事が『子どもの科学』(誠文堂新光社)という雑誌に出ていました。とても興味深いですね。これは人間が暮らせる条件の話ですから、実際に暮らすとなると表向きの条件だけではありません。そう簡単ではないでしょうね。しかし、深海300メートルの生活の可能性なんてことを考えている人がいるという事だけで楽しいのです。

### 家を離れて「自分」を見つめる

そこで僕らは教育とか人生の一つのヒントとして、ある年齢になったら「家を離れて「自分」を見つめる」という体験をお勧めしています。「くだけた生活舎」で合宿などしているのはそういうネライがあるのです。ですから、ただのキャンプとか自然体験というような意味ではなくてしっかりとした「よい生活」という中身の考えというか思想があるわけです。家を離れるというのは、親から離れ「自己」に立ち返るといってもあります。

から、しっかりと「自分」を見つめる期間ともなるわけです。ただの家出でもいいのですが、ちゃんと道筋のついた「自己探求」が必要なのです。この山の家には何年とか何か月とかの単位で家を離れて来ています。繰り返してください。繰り返してください。繰り返してください。

「よい生活」は「自己探求」「自己発見」の人生の旅でもあるのです。① 生活のケジメ

よい生活には大きなポイントがあります。全体としては「手足を動かして」というものです。口ばかりで頭の中でごちゃごちゃと言っていないで、実際に「手足を動かして行動する」ことを大切にしています。そこで大事なことは「生活にケジメをつける」という事なのです。好きなことも嫌いなことも、良いことも悪いこともダラダラしていないでさっさとケジメをつけることです。切り替えをして行かないと、大切な「自分」を見失います。ゲームばかりして昼夜が逆転して、人生の大半

を失ってしまったって無駄に過ごしてしまうのです。そもそも、くだけた生活「よい生活」のネライと願いは

自分を活かす  
能力を発揮する

視野が広がり深まる  
というところがあります。その方がしあわせだからです。何度でも言いますが、自分で何もできない子を作ってしまうのは不幸を生み出しているに他ならないのです。「一つでもできることを増やす」というのがこの生活の重要な項目です。

### ② 自分の隣にも自分が

「よい生活」のもう一つのポイントは競争社会の中で案外忘れ去られていることです。誰もが「自分」なのです。「平和」とか心の「平安」とかを求めていく時に隣の人も「自分」と思っているという事は「自分」と同じような願望や欲望をもっているのだ、という事をハッキリと認識するという事です。家の中ではお父さんも「自分」、お母さんも「自分」です。世間では隣の人も「自分」そのまた向こうの人も「自分」です。みんな同じようにお

しいものを食べたかったり、あたたかい家で過ごしたいのです。みんな「あんしん」を求めているのです。「平和」ってそんなことがはっきりと分かるってことです。

くだけた「よい生活」はみんな一つ一つの生活をする中で「分け合い」や「ゆずり合い」や「呼吸合わせ」や「力合わせ」を学んでいくのです。人の痛みや苦しみや喜びや楽しみの声なき声を聴く。「こころの聴力」を育てていくのです。また「こころの視力」をしっかりとつけていけばグルリの自然を丸ごと受け止めていくこともできます。

### 競争というまやかしの意欲

昨今の世の中で「教育」の大きな間違いは競争というものの考え違いです。先月号「たねニュース」の若い人の質問のページに掲載したTさん(10代女性)の質問にある「競争心」と「向上心」の違いというものを参考にしてください。競争心というものは必ず人々の心のどこかにあるものです。だからそれを利用して意欲を引き出したいと思うのも道理のように思えます。ところが無闇に競争心をおおっていくとどうなるでしょう。人に勝つことが人生のしあわせだと思

人に勝てない自分はダメな奴だと思ってしまう。競争心で起こって来る意欲は一見よさそうですが、落とし穴がいくつも存在しているのです。日本中の人や世界中の人を相手に闘い続けていると思っている人もいます。「世界一になつてやる」と燃えている人もいます。それは限定された種目や条件の話です。そんなに力まなくてもいいのです。「自分」はどんなに頑張っても頑張らなくても「世界に一人」です。

そのたった一人の「自分」を活かし切ることにこそ意欲の根本があるのです。誰かに勝つことではなくて「自分」に克つことですね。快いこと、悦べること、満足の質の良いこと、楽しめること……そんなことを表面的ではない深い所に求めていくのが「よい生活」の中身の方向です。



山の茂吉(和田重良)  
1948年、小田原生まれ。東京教育大卒。くだけた生活舎(神奈川県山崎)を足場に共同生活(人生活や農作業中心)の実践をとおして、誰もがあんしんしてその人らしく生きることを願い、35年以上にわたって青少年や家庭の生活にさまざまなメッセージを送り続けている。